

CO₂排出量53%減

半たわみ性舗装 環境配慮型を実用化



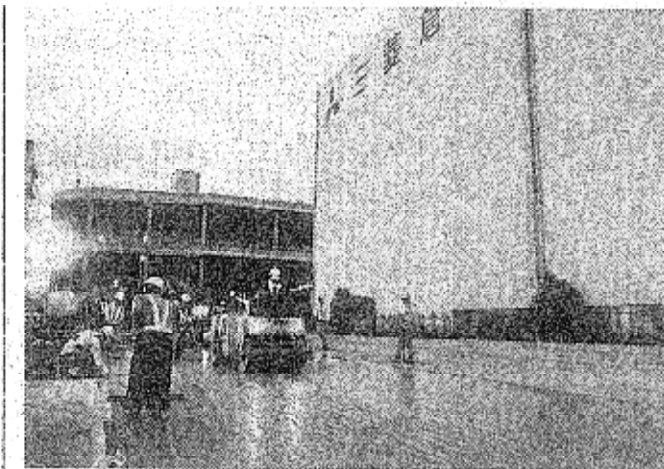
NIPPOは、半たわみ性舗装「低炭素ポリシール」の環境配慮型を実用化した。リサイクル材をベースにした低炭素型セメントを主原料とする専用プレミックス材「低炭素ポリバックLC」を使用。従来製品と比べて製造に伴う二酸化炭素(CO₂)排出量を最大で約53%削減できるという。環境省が運用する「環境ラベル」を取得済み。環境対応舗装として高い評価を受け、東京都内のコンテナヤード舗装改修工事に初めて採用された。

半たわみ性舗装は、開水を加えたセメントミルクを注いだ舗装。コストと施工方法は従来の半たわみ性舗装と変わらなず、CO₂排出量を少なくした。種類は養生時間に応じて普通タイプ(養生時間3日)、超速硬タイプ(3時間)をそろえている。

今回の環境配慮型は、低炭素ポリバックLC(超速硬タイプ)に用いる低炭素型セメントの製造に伴うCO₂排出削減量をさらに高めたのが特徴だ。原材料にリサイクル材を活用し、焼成時にバイオマス燃料などを利用することで、製造時のCO₂排出量が従来の超速硬セメントの8分の1程度になった。市販の超速硬プレミックス材と比べると、CO₂排出削減

量は製品ベースで最大約53%になるという。同社は、三菱倉庫の「大井CY舗装改修計画」(東京都品川区)に環境配慮型半たわみ性舗装を提案した。その結果、三菱倉庫の環境方針と合致した環境対応型の舗装として高い評価を得て採用が決まった。

改修工事では既設舗装版を平均厚さ20センチで撤去した上で、厚さ10センチのプレミックス材「ポリバックLC」や「ポリバックLC」や「パーフェクトクール」などを製品を環境ラベルに登録済み。これら環境ラベル製品を事業活動のCO₂削減に取り組んでいる公共機関や民間企業に積極的に提案していく方針だ。



コンテナヤード舗装改修で初の実施工

低炭素ポリシールは、低炭素ポリバックLCに

③半たわみ性舗装で環境配慮型

NIPPOが半たわみ性舗装「低炭素ポリシール」の環境配慮型を実用化した。リサイクル材をベースにした低炭素型セメントを主原料とする専用プレミックス材「低炭素ポリバックLC」を使用。従来製品と比べ製造に伴う二酸化炭素排出量を最大53%削減できる。